

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	小児看護学実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	75 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次	学期及び曜時間	前期	教室名	各施設
担 当 教 員	服部明菜 他	実務経験と その関連資格	病院等で看護師経験あり		

《授業科目における学習内容》

健康障害をもつ子どもの成長・発達を考慮した看護を行うための知識・技術・態度を学ぶ。

保育所実習や病院実習を通して成長・発達過程にある子どもとその家族の理解を深め、成長・発達および健康の状態に応じた看護の役割を学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

1) 実習評価は実習日数の3分の2以上を出席したものを対象とする。 2) 評価は実習の全ての経過を対象とし、評価表に基づいて行う。

3) 実習目標の達成状況ならびに以下のことを踏まえ総合的に評価を行う。保育所実習(30%)、病院実習(70%)で評価する。

①実習出席状況 ②事前・追加学習 ③実習記録 ④実習態度

《使用教材(教科書)及び参考図書》

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術 第3版

看護技術がみえる 臨床看護技術 ① メディックメディア 看護技術がみえる 臨床看護技術 ② メディックメディア 各疾患別テキスト医学書院他

《授業外における学習方法》

実習前の事前課題に取り組み、実習中は自己学習を行う。見学した児の発達課題を踏まえ、成長・発達段階、疾患別における必要な看護を考える。

《履修に当たっての留意点》

実習要綱を熟読し、実習準備を十分に行う。実習中は積極的に質問する。感染予防対策を十分に行い、健康管理に努める。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
病院 1 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 ・病棟の構造と機能、週間予定・日課などの情報を収集することができる。 ・患児・家族の看護ケア、処置、検査に同行することができる。	必要参考図書	事前課題
	各コマにおける授業予定	1) 初日のオリエンテーション(小児病棟・小児外来) 2) 患児・家族の看護ケア、処置、検査に同行		
2・3 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 ・患児・家族の看護ケア、処置、検査に同行することができる。 ・見学・実施した内容を記録に残すことができる。	必要参考図書	実習内容に関連した学習に取り組む
	各コマにおける授業予定	1) 患児・家族の看護ケア、処置、検査に同行・実施		
4 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 外来の特徴、外来を受診する小児の特徴、安全管理、診察の介助、看護援助の実際について考えをまとめることができる。	必要参考図書	実習内容に関連した学習に取り組む
	各コマにおける授業予定	1) オリエンテーションで外来の特徴 (一般外来、専門外来・特殊外来、乳幼児健診、健康診査や相談) 2) 外来を受診する小児の特徴 3) 安全管理 4) 診察の介助、看護援助の実際 *1か月健診の見学をする		
5 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 外来の特徴、外来を受診する小児の特徴、安全管理、診察の介助、看護援助の実際について考えをまとめることができる。	必要参考図書	実習内容に関連した学習に取り組む
	各コマにおける授業予定	1) 外来の機能 (一般外来、専門外来・特殊外来、健診・相談・予防接種) 2) 外来を受診する小児の特徴、受診の目的、反応 3) 安全管理 4) 診察の介助、看護援助の実際		
6 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 ・バイタルサイン測定や状態観察の見学・一部実施をすることができる。 ・最終カンファレンス「小児看護学実習の学び」に取り組むことができる。 ・見学・実施した内容を記録に残すことができる。	必要参考図書	実習内容に関連した学習に取り組む
	各コマにおける授業予定	1) 患児・家族の看護ケア、処置、検査に同行 2) 最終カンファレンス 3) 記録整理(午後からは学内実習)		
保育所 1 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 ・映像学習・演習を通して、健康な子どもへの日常生活援助の方法を理解することができる。 ・保育所の施設の構造・安全管理についての情報を収集することができる。	必要参考図書	事前学習
	各コマにおける授業予定	1) 「保育所実習への心構え」を学ぶ 2) オムツ交換、授乳、抱っこの演習(午前中は学内実習) 3) 施設オリエンテーション、施設見学 4) 2日目以降の実習内容の調整		
2・3・4 保育所 日目	実習形式	授業を通じての到達目標 子どもと園庭での遊びや合同保育などで接したり、指導者の関わりを見学したりすることができる。子どもの成長・発達、遊び、表情、活気、機嫌、気持ち、思い、友達関係などを意識的に観察することができる。	必要参考図書	実習内容に関連した学習に取り組む
	各コマにおける授業予定	1) 身体面、運動、言語、感覚、情緒社会性などの理解 2) コミュニケーション、遊び3) 園内での日常生活 4) 保育、養護の実際5) 各職種の役割および連携		